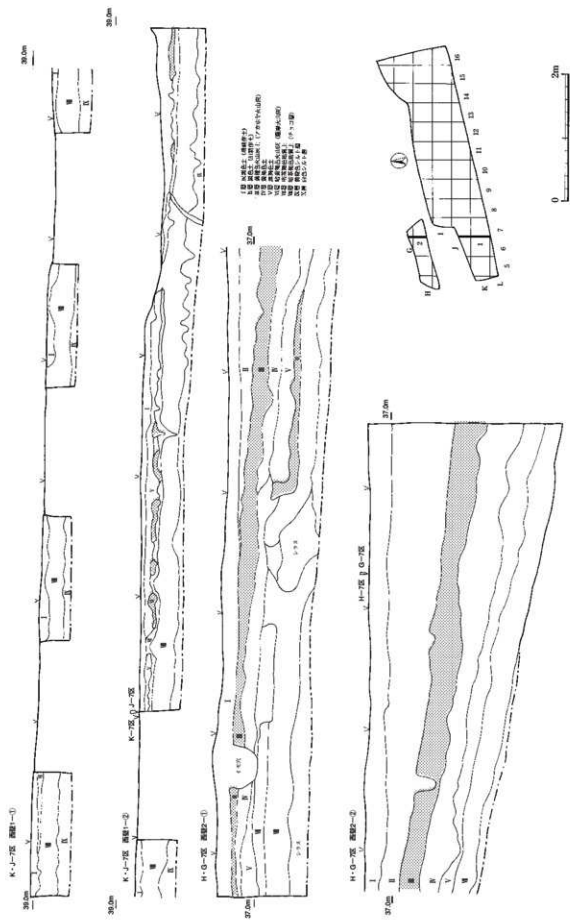


第3図 土層断面図1



第4図 土層断面図2

第2節 発掘調査の方法及び概要

発掘調査は国土座標にあわせた20×20mの調査範囲（グリッド）を設定して実施し、遺跡地内の北側からA・B・C…、西側から1・2・3…とした。

遺跡は、谷を挟んで北側は宗円塚遺跡・頭無遺跡、東側は市塚遺跡、南側は中尾遺跡に接している。標高35～43mの傾斜地に在り、北側に比高差15mの谷が入り込んでいる。

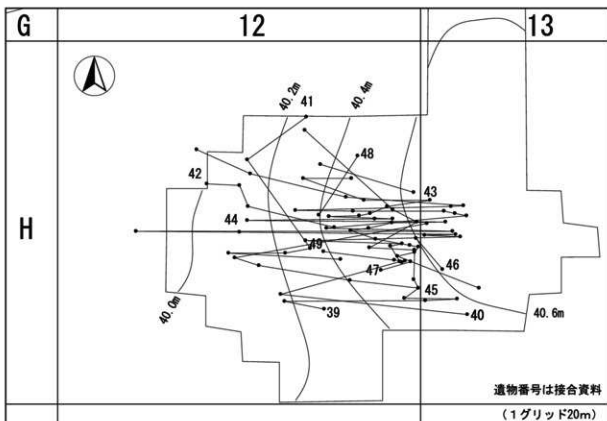
調査の結果、東側の市塚遺跡に接している所では中世の掘立柱建物跡が検出され、市塚遺跡の掘立柱建物跡群と一連のものと考えたい。Ⅱ層は削除されているため中世の遺物は出土していない。Ⅲ層からは縄文時代晩期の入土式土器がわずかに出土している。Ⅳ層・Ⅴ層からは縄文時代早期の遺構・遺物が多く出土している。遺構は集石遺構が8基検出され、遺物は石版式土器を中心に前平式土器・桑ノ丸式土器・下剥筆式土器・押型文土器・塞ノ神式土器等が出土している。また、石器も石鎌・石斧・磨石・石皿等豊富である。Ⅵ層からは、旧石器時代のブロックが検出され、ナイフ形石器や台形石器が出

土している。また、剥片も多く出土し、接合もできる状況である。

第3節 遺跡の層序（第3図・第4図）

頭無迫田遺跡における層序は、農業開発総合センター遺跡群における標準的な層序と同様である。字頭無迫田は大野原台地の南側に位置し、西側から入り込んでいる谷を含めて谷の南北に広がる。本調査を実施したのは、1号調整池により削除される範囲及び作物付帯研究施設建設に伴う範囲で、いずれも谷の南側である。調査を実施した範囲の標高を見ると南東側が43m、南西側が38m、北東側が42m、北西側が36mと南東から北西へ傾斜している地形で、北側は谷へ向けて急傾斜で、谷との比高差は15m程度である。高い部分では上層が削平されている所が多く、旧地形はもっと傾斜が強かったと思われる。

南側の大平が削平を受けⅡ・Ⅲ層は見られない。また、部分的にⅣ～Ⅴ層まで削平されている所もある。平成11年度に調査された北側では、Ⅲ層がよく残っており、谷に近い傾斜地ではⅡ層の堆積も厚く残っている。



第5図 旧石器時代遺物出土状況

第4節 旧石器時代の調査成果

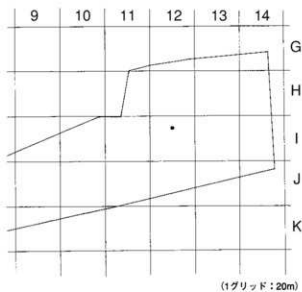
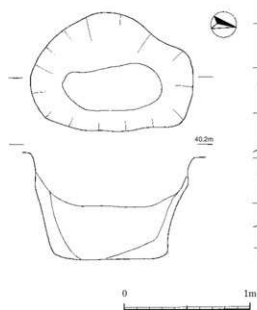
旧石器時代の遺物包含層はⅧ層である。H-12・13区において石器や剥片が集中しているブロックが検出されている。また、H-13区ではチャートの礫6個がまとまって出土する集積遺構。I-12区において落とし穴と思われる土坑が検出されている。遺物はナイフ形石器・台形石器と剥片が出土している。

1 遺構（第5図・第6図・第7図）

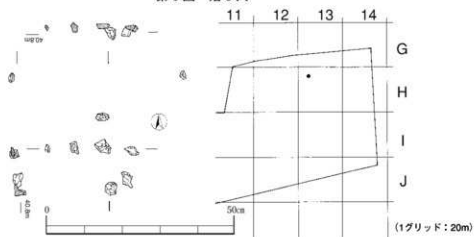
遺構はブロックとチャートの礫集積遺構および落とし穴が検出されている。

(1) ブロック（第5図）

ブロックは、H-12・13区を中心に検出され、ナイフ型石器・台形石器・剥片等が集中して出土している。石材は、頁岩・チャート・玉髄・黒曜石を主体とするものである。



第6図 落とし穴



第7図 チャート集積遺構

(2) 落とし穴（第6図）

落とし穴は、I-12区のⅧ層上面において検出されたもので、長さ1.27m、幅0.95m、深さ0.8mの規模である。平面形状は略楕円形で、掘り込みはほぼ垂直に近い。また、底面に小ピットは存在しない。埋土の下部はシラス混じりのやや明るいが、上部は、Ⅷ層の暗茶褐色粘土が入っている。底面に小ピットは存在しないが形状から落とし穴と考えたい。

(3) 集積遺構（第7図・第8図）

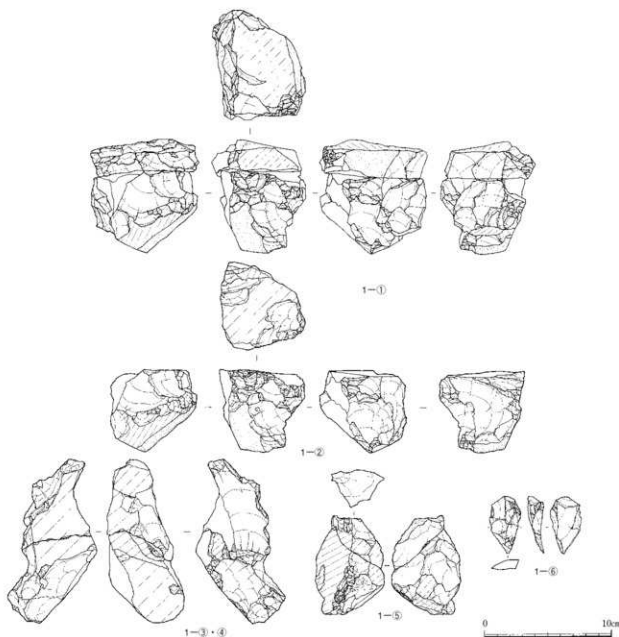
集積遺構はH-13区のⅧ層において検出された。約50cmの範囲に4-10cm大のチャートの礫7点と頁岩の剥片1点がまとまって出土している。I-①は石核と厚手の分割剥片の接合面である。節理面を利用して分割された可能性がある。②はその平坦な断面を打面とする石核である。正面部分にわずかな

剥離が見られるが、剥片剥離は進んでなく準備段階で止めたと考えられる。③と④の接合資料は分割された厚手の剥片が接合したものであり、石核の素材剥片である。⑤も節理面から分割された剥片の接合資料である。⑥は1の一括資料に含まれる他石材の剥片である。石材は頁岩であり部分的に二次加工が認められる。

(4) 旧石器時代の遺物 (第9図～第20図)

2～8はナイフ形石器である。2は砂岩製で比較

的大きなものであり縦長剥片の基部と片側先端部に二次加工を施したものである。先端部をわずかに欠損する。3は三船産黒曜石製の小型縦長剥片を素材とし、基部と右側縁にブランティングを施したものである。4は玉髄の剥片を使用し基部と先端部近くにブランティングを施したもので裏面にも平坦剥離が施されている。5はチャート製の小型縦長剥片を素材とし、基部にブランティングを施したものである。6・7は同一母岩と考えられる珪質頁岩の剥片

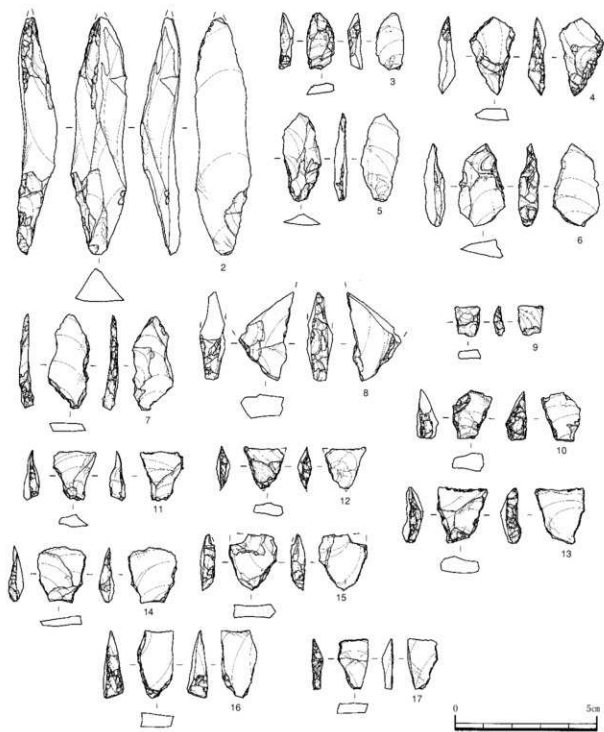


第8図 旧石器1

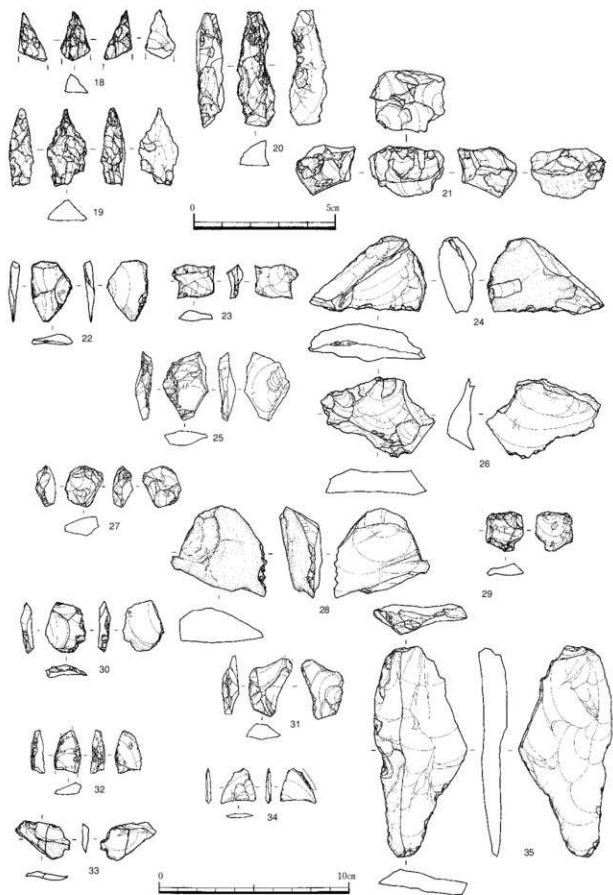
にブランディングを施したものである。8は厚手の幅広剥片を素材としてブランディングを施したものであるが先端部を欠損している。

9～17は台形石器である。9は三船産黒曜石の剥片を横位に使用し、細かいブランディングを施した部分を両側縁にしたものである。10～15は比較的小さい不定形剥片を素材として、両側縁にブランティ

ングを施し、剥片の鋭利な縁辺を上部水平方向に用いた台形石器である。このうち15は上牛鼻産黒曜石を石材としている。10・13・14は玉髓製である。16・17は11と同一母岩の珪質頁岩製であり、幅広の剥片を素材として基部から片側側縁にブランディングを施したもので、片側側縁は折断のままである。



第9図 旧石器2



第10图 旧石器 3

18-21は三稜尖頭器である。18は三船産黒曜石で両側面に整形加工が施された先端部である。19・20は上牛鼻産黒曜石の縦長剥片を素材とし、二次加工により両側面を整形したものであり、稜上調整も施されている。19は基部を20は先端部を欠損している。21は石核である。上牛鼻産黒曜石製で背面に自然面が残るが、正面と両側面には剥片剥離が施されており、打面も周囲から求心状に剥片剥離が行なわれている。

22-35はスクレイパーとしたものである。22は良質黒色を呈する腰岳産に近い西北九州系の黒曜石製剥片に二次加工を施し、刃部としたものである。23は玉髓質剥片の縁辺に二次加工が認められ、2ヶ所の突端近くに細かい二次加工が認められ突端部は錐として使用されたとと思われる。24は硬質砂岩の縁辺に二次加工が施されたもの。25-28は同一母岩と推定される珪質頁岩を利用して縁辺に粗い二次加工が施されたものである。29-34は三船産黒曜石や玉髓系剥片の縁辺に二次加工を施して刃部としたものである。

35はシルト質頁岩製で大型の縦長剥片の一部に二次加工を施したものである。

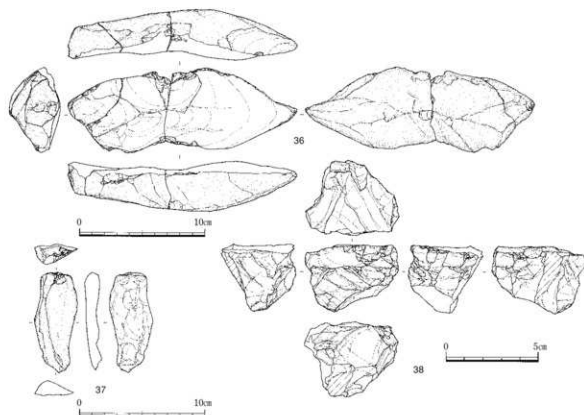
36はシルト質頁岩の大型剥片を素材とした石核である。確皮面を打面にして剥片を剥いでいる。また、側面を打面にして求心状に剥離を行なっている。

37は36と同一母岩の可能性があるので、表皮のついた最初の剥片である。

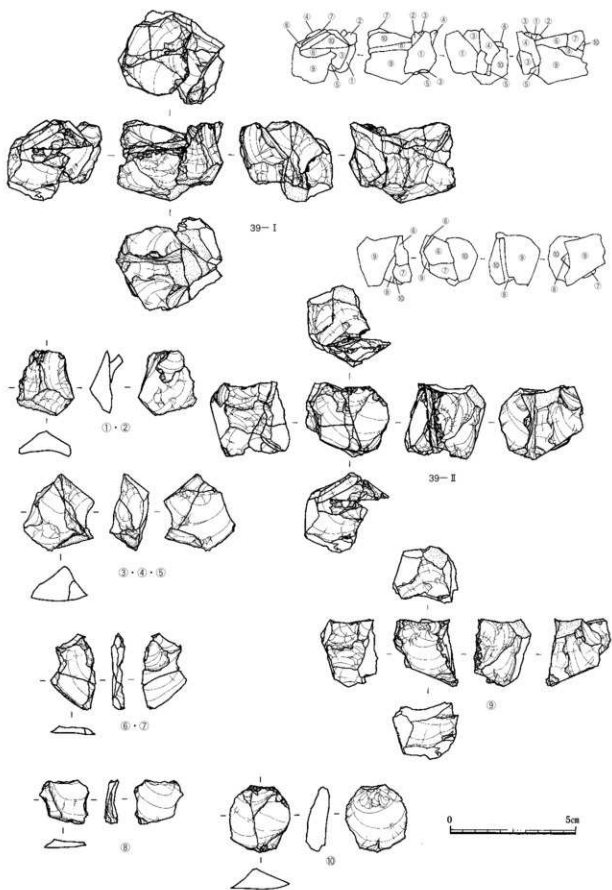
38は平坦な節理面を打面にして、そこから剥片剥離を行なった石核である。縦長剥片を意識して剥離しているが、節理の目によりステップしている。

39-49は接合資料である。39は鉄石英を石材とした接合資料である。39-Iは全体の接合関係であり、39-IIではより細かくなった段階、そして④が最終段階の石核であり、最後まで剥片剥離が行なわれている。このことは目的剥片がちいさくても使用可能であることを意味している。

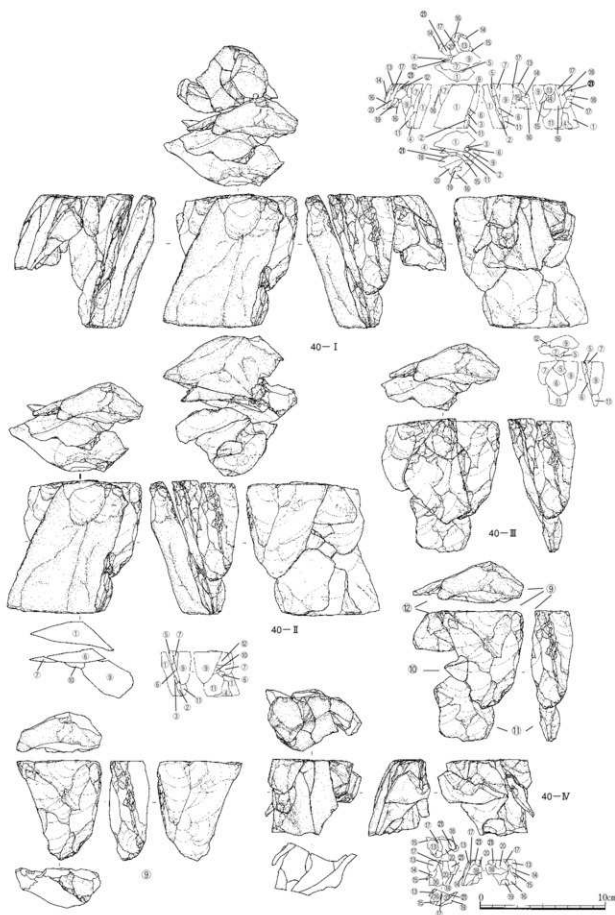
40はシルト質頁岩を石材とする接合資料である。比較的に中型から大型の縦長剥片を取ることを目的としたものと考えられる。



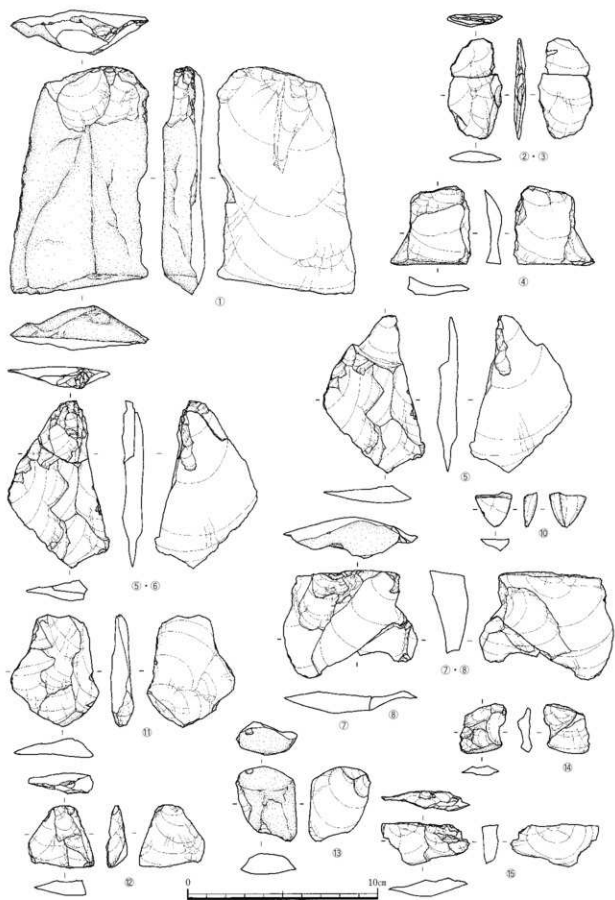
第11図 旧石器4



第12图 旧石器 5



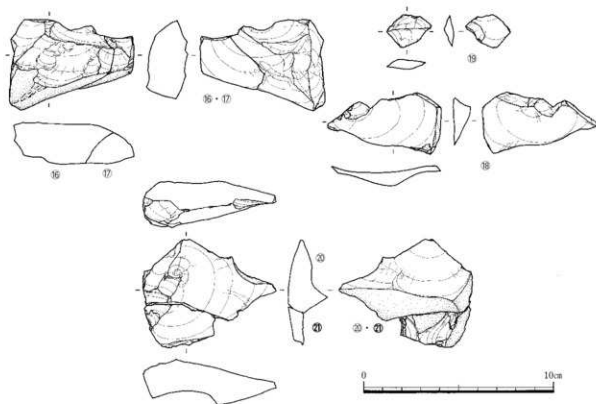
第13图 旧石器6



第14图 旧石器 7

41～43は41と同一母岩と考えられるものである。一連の剥片剥離の一部と考えられる。このうち43は剥片とスクレイパーが接合したものである。43-②は幅広の剥片の両側縁に比較的粗い二次加工を施し刃部としている。

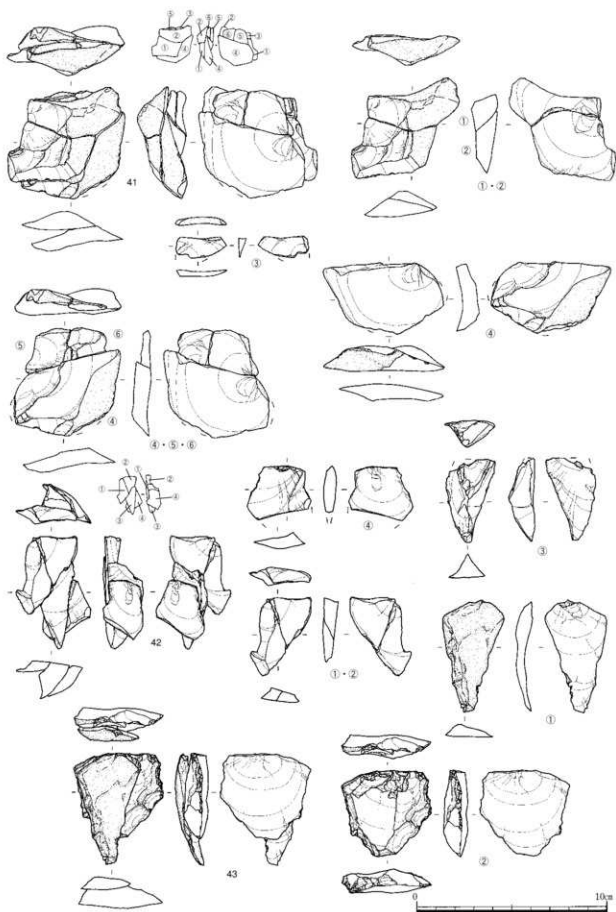
44～49は珪質頁岩を石材とするもので同一母岩と考えられるものである。石核は残されていないが一連の剥片剥離過程がうかがえる資料である。なおナイフ形石器や台形石器・スクレイパー等としてこれらの剥片が使用された同一母岩系のものが6・7・11・16・17・25～28である。



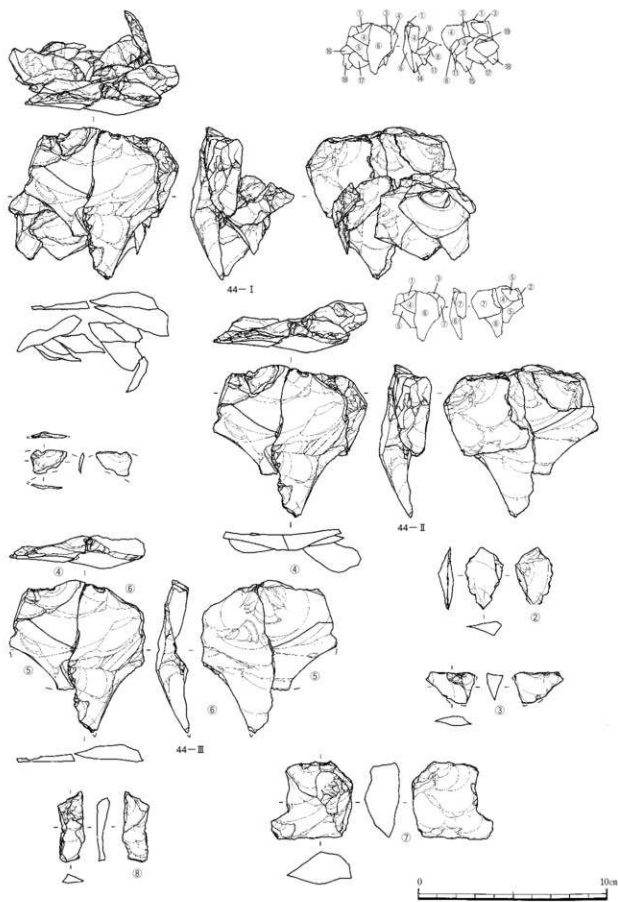
第15図 旧石器 8

旧石器時代観察表 1

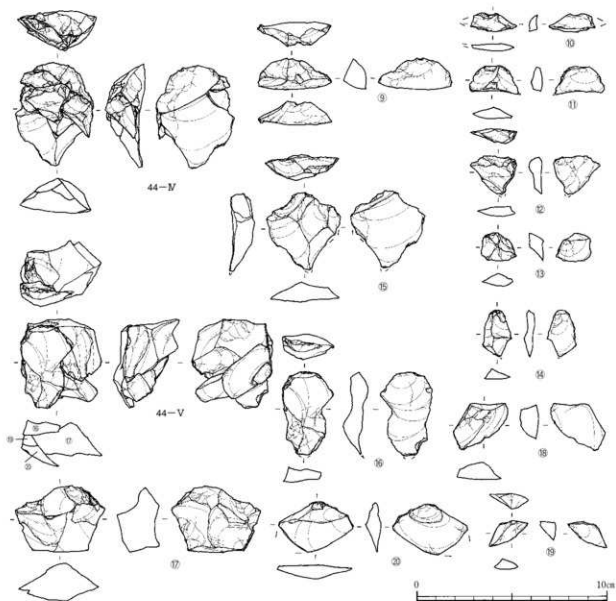
検出番号	番号	器種 遺構	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第8区	1	基礎遺構	H-13	Ⅴ	チャート	—	—	—	—	接合資料
	1-6	剥片	H-13	Ⅴ	頁岩	4.50	2.50	1.30	1.15	
	2	ナイフ形石器	H-13	Ⅴ	砂岩	(8.40)	2.90	1.45	18.30	
	3	ナイフ形石器	H-13	Ⅴ	黒曜石(三輪)	2.00	1.00	0.50	0.90	
	4	ナイフ形石器	H-12	Ⅴ	玉髄	2.75	1.60	0.62	2.10	
	5	ナイフ形石器	H-13	Ⅴ	チャート	3.10	1.35	0.45	1.60	
第9区	6	ナイフ形石器	H-12	Ⅴ	珪質頁岩	2.90	1.70	0.70	3.70	
	7	ナイフ形石器	H-12	Ⅴ	珪質頁岩	3.30	1.50	0.60	2.20	
	8	ナイフ形石器	H-12	Ⅴ	頁岩	3.10	1.90	0.90	4.10	
	9	台形石器	H-13	Ⅴ	黒曜石(三輪)	1.05	0.90	0.40	0.30	
	10	台形石器	H-12	Ⅴ	玉髄	1.75	1.40	0.75	1.50	
	11	台形石器	H-12	Ⅴ	珪質頁岩	1.80	1.50	0.60	1.10	
	12	台形石器	H-12	Ⅴ	黒曜石(上牛鼻)	(1.50)	(1.40)	0.50	0.70	
	13	台形石器	H-12	Ⅴ	玉髄	2.00	1.80	0.75	2.30	
	14	台形石器	H-13	Ⅴ	玉髄	2.00	1.70	0.55	1.40	
	15	台形石器	H-13	Ⅴ	黒曜石(上牛鼻)	2.00	1.70	0.55	1.90	
	16	台形石器	H-13	Ⅴ	珪質頁岩	2.40	1.30	0.70	2.20	
	17	台形石器	H-12	Ⅴ	珪質頁岩	1.80	1.10	0.40	0.90	



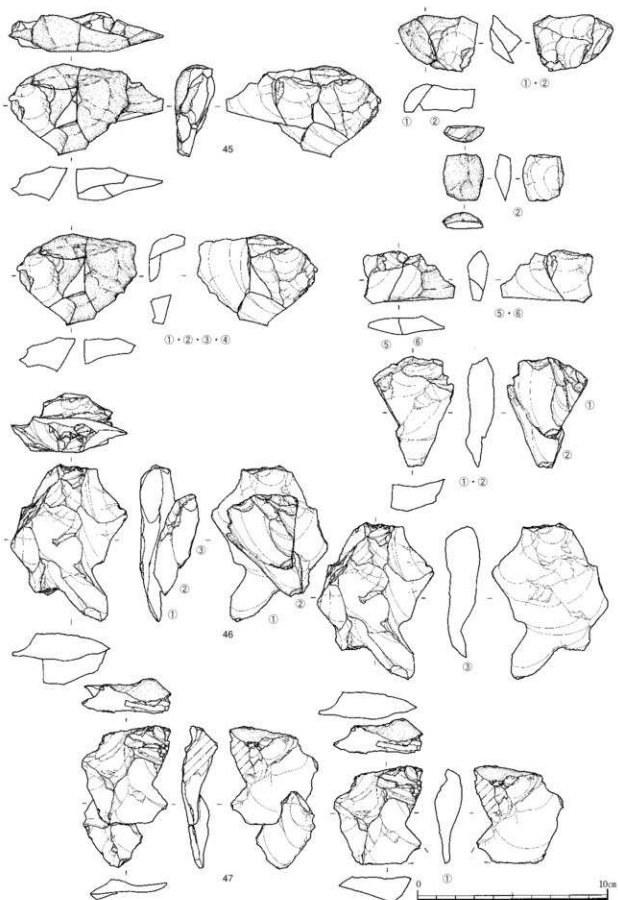
第16图 旧石器 9



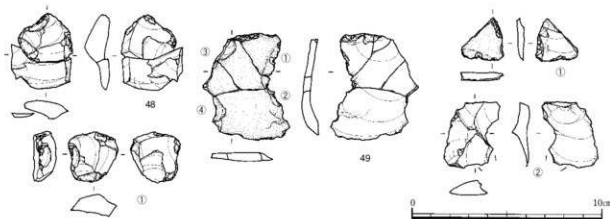
第17图 旧石器10



第18圖 旧石器11



第19図 旧石器12



第20図 旧石器13

旧石器時代観察表 2

種別 番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第10 図	18	三稜尖頭器	I-12	Ⅴ	黒曜石(三輪)	(1.75)	(1.10)	(1.00)	0.90	
	19	三稜尖頭器	H-12	Ⅴ	黒曜石(上牛鼻)	2.75	1.40	0.90	2.40	
	20	三稜尖頭器	H-13	Ⅴ	黒曜石(上牛鼻)	4.10	1.35	0.95	5.30	
	21	フランク	H-12	Ⅴ	黒曜石(上牛鼻)	1.80	2.65	2.10	10.90	
	22	スクレイパー	H-12	Ⅴ	黒曜石(南北九州系)	3.25	2.15	0.60	2.50	
	23	スクレイパー	H-13	Ⅴ	玉髄	1.80	2.50	0.90	2.50	
	24	スクレイパー	H-12	Ⅴ	燧石(砂岩)	4.10	6.20	2.00	32.20	
	25	スクレイパー	H-12	Ⅴ	珪質頁岩	3.60	2.40	0.90	9.40	
	26	スクレイパー	H-13	Ⅴ	珪質頁岩	5.30	6.00	1.50	30.50	
	27	スクレイパー	H-13	Ⅴ	珪質頁岩	2.20	2.00	1.10	4.30	
	28	スクレイパー	H-12	Ⅴ	珪質頁岩	4.80	5.10	2.30	44.30	
	29	スクレイパー	H-13	Ⅴ	黒曜石(三輪)	2.15	2.00	0.65	2.80	
	30	スクレイパー	H-13	Ⅴ	玉髄	2.70	2.15	0.70	3.20	
	31	スクレイパー	H-13	Ⅴ	玉髄	(3.10)	(2.20)	0.90	4.20	
	32	スクレイパー	G-13	Ⅴ	黒曜石(三輪)	(2.25)	(1.40)	(7.05)	1.90	
	33	スクレイパー	H-12・13	Ⅴ・Ⅵ	玉髄	2.10	2.90	0.50	2.20	
	34	スクレイパー	H-12	Ⅴ	玉髄	1.90	1.90	0.30	0.90	
	35	スクレイパー	H-12	Ⅴ	シルト質頁岩	11.20	4.90	1.60	62.20	
第11 図	36	石塊	H-13	Ⅴ	シルト質頁岩	7.00	18.60	4.10	475.0	
	37	剥片	H-13	Ⅴ	シルト質頁岩	8.20	3.50	1.70	41.90	
	38	石塊	H-13	Ⅴ	頁岩	3.70	5.10	4.10	68.60	
第12 図	39	接合資料	H-12・13	Ⅴ	鉄石炭	—	—	—	—	
	40	接合資料	H-12・13	Ⅴ	シルト質頁岩	—	—	—	—	
	41	接合資料	H-12	Ⅴ	シルト質頁岩	—	—	—	—	
	42	接合資料	H-12	Ⅴ	シルト質頁岩	—	—	—	—	
	43	接合資料	H-12	Ⅴ	シルト質頁岩	—	—	—	—	
	44	接合資料	H-12・13	Ⅴ	珪質頁岩	—	—	—	—	
	45	接合資料	H-12	Ⅴ	珪質頁岩	—	—	—	—	
	46	接合資料	H-12・13	Ⅴ	珪質頁岩	—	—	—	—	
	47	接合資料	H-12	Ⅴ	珪質頁岩	—	—	—	—	
	48	接合資料	H-12	Ⅴ	珪質頁岩	—	—	—	—	
	49	接合資料	H-12	Ⅴ	珪質頁岩	—	—	—	—	

第5節 縄文時代の調査成果

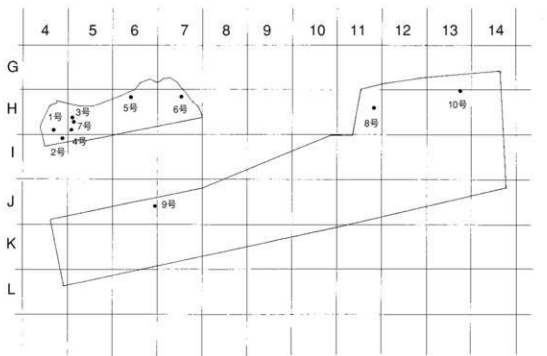
縄文時代は早期の遺物出土量が際立っている。早期では、集石遺構10基が検出され、土器・石器が多く出土している。晩期では、1間×1間の掘立柱建物跡、柱穴（3～6個）が1列に並ぶ柱穴列が検出され、土器・石器も多く出土している。土器は入体式土器が主体である。後期は市来式土器が1点出土したのみで、遺構も検出されなかった。

1 縄文時代早期の調査成果

縄文時代早期では、前葉から後葉（Ⅰ類～Ⅺ類）までの11類の土器が出土している。その中で出土量の多いのはⅤ類土器、次いでⅢ類土器・Ⅱ類土器・Ⅳ類土器である。遺構は集石遺構が10基検出されている。

(1) 遺構（第21図～第25図）

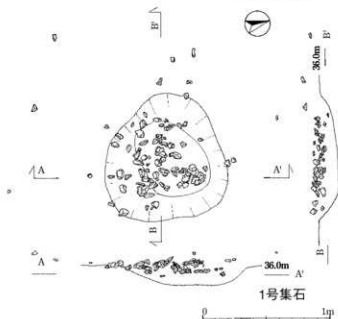
縄文時代早期の遺構は、平成11年度調査分7基、平成15年度調査分3基、合わせて10基が検出されている。



(1グリッド：20m)

1号集石遺構（第21図）

H-4区において検出されたもので1.5m×1.5mの範囲に広がるが、集中範囲は0.6m×0.6mである。こぶし大の角礫98個からなり、掘り込みは中心部に位置し、長さ1m、幅1m、深さ0.15mの不整形なものである。また、礫は掘りこみの床面より上位にあり、ほぼ平坦である。



第21図 縄文時代早期集石遺構配置図 1号集石遺構

2号集石遺構 (第22図)

1-4区において検出されたもので、1.5m×1mの範囲に広がる。こぶし大の角礫63個からなり、礫は、やや集中しているが、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

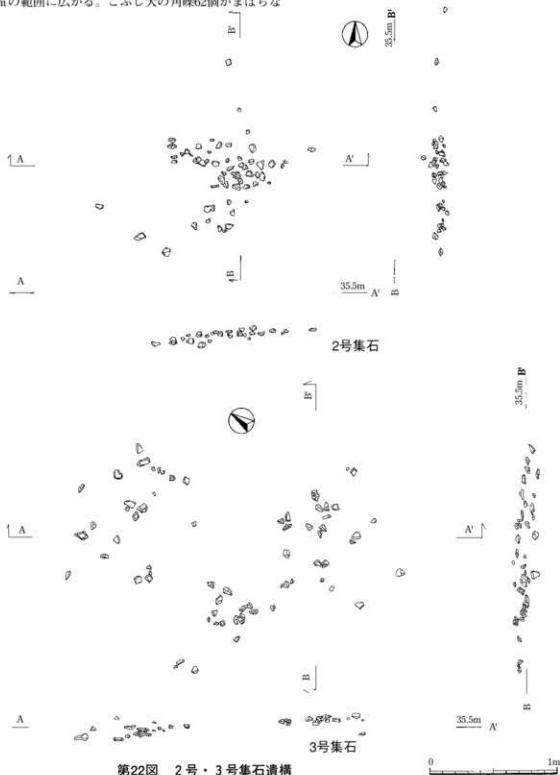
3号集石遺構 (第22図)

H-5区において検出されたもので、2.5m×1.8mの範囲に広がる。こぶし大の角礫62個がまばらな

状態で見られる。掘りこみは見られずほぼ平坦である。

4号集石遺構 (第23図)

H-5区において検出されたもので、1.5m×1mの範囲に広がる。こぶし大から小礫まで46個からなり、南端にわずかな集中が見られ、北側へのびている。掘り込みは見られずほぼ平坦である。



5号集石遺構 (第23図)

H-6区において検出されたもので、1.5m×1.3mの範囲に広がる。こぶし大の角礫を中心に56個からなる。北側の傾斜が強いため、一部が傾斜に沿って落ちている状況である。掘り込みは見られない。

6号集石遺構 (第23図)

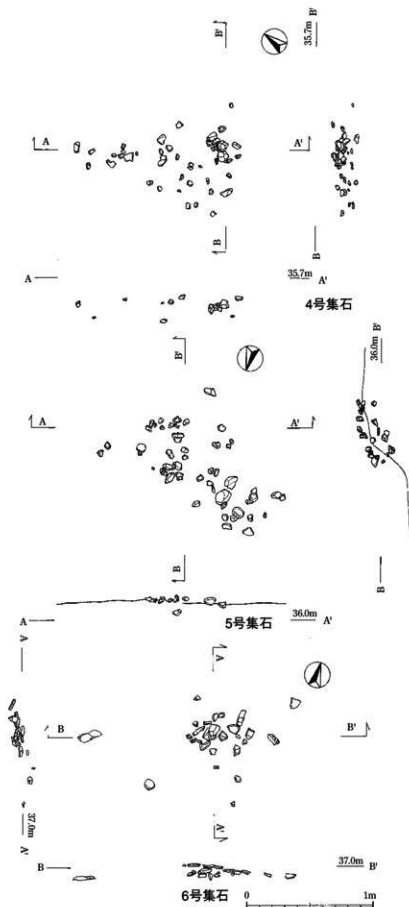
H-7区において検出されたもので、1.6m×1mの範囲に広がる。10cm大の角礫を中心に26個からなり、中心部にわずかな集みがある。東側に土器片2点も見られる。掘り込みは見られず平坦である。

7号集石遺構 (第24図)

H-5区において検出されたもので、1m×1mのこぶし大の角礫126個が集中している。掘り込みは集中域の下で、0.7m×0.6m、深さ0.2mである。礫も掘り込みの下部まで入り込んでいる。

8号集石遺構 (第24図)

H-11区において検出されたもので、2.3m×1.8mの範囲にこぶし大の角礫35個がまばらな状態で見られる。掘り込みはなく平坦である。



第23図 4号・5号・6号集石遺構

9号集石遺構 (第25図)

J-6区において検出されたもので、3m×3mの広い範囲に見られる。こぶし大よりやや大きめの角礫を中心に309個の礫が1m×1mのやや集中した範囲を中心に周辺はまばらに散在している状況である。掘り込みは集中している範囲の下位にあり、1.35m×1.25mの円形プランであるが、深さは

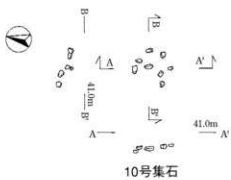
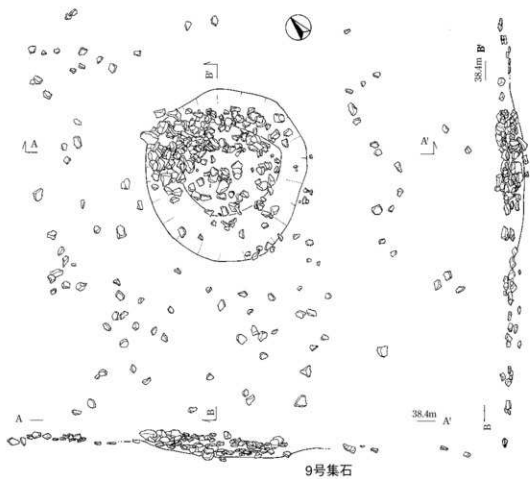
0.2mと浅いものである。周辺に散在している礫は中心部から掻き出されたものと思われる。

10号集石遺構 (第25図)

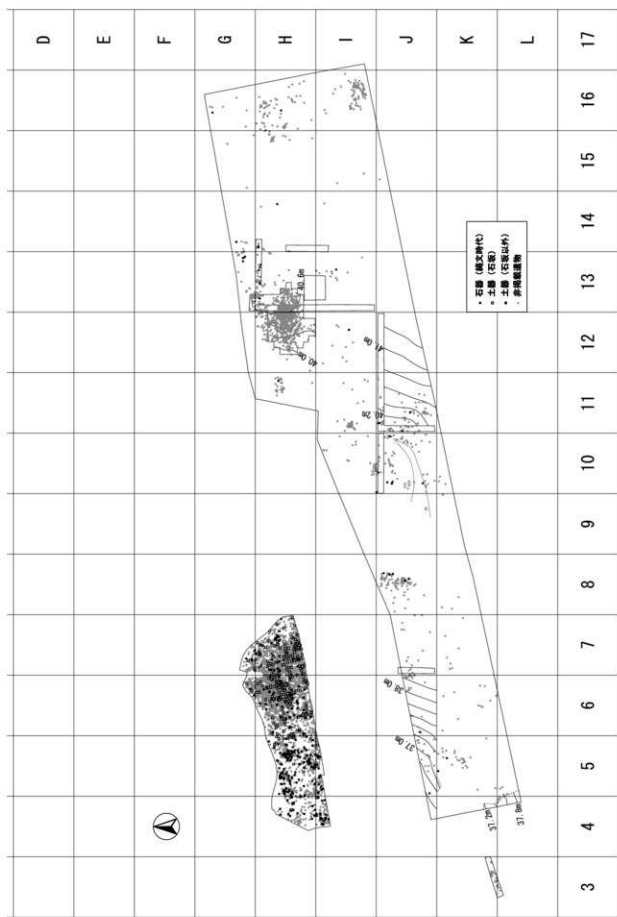
H-13区において検出されたもので、0.3m×0.3mの範囲に10cm未満の角礫8個がまばらな状態で見られる小さなものである。掘り込みは全く平坦である。



第24図 7号・8号集石遺構



第25图 9号・10号集石遺構



第26図 縄文時代早期遺物出土状況

(2) 遺物 (第27図～第59図)

①土器 (第27図～第49図)

縄文時代早期の土器は、Ⅰ類～Ⅲ類の11類に分類される。Ⅱ類土器・Ⅲ類土器・Ⅴ類土器はまとまって出土しているが、他の類は数は少ない。

Ⅰ類土器 (第27図)

Ⅰ類土器はほぼ直行する円筒土器である。口縁部にへう状施文具もしくは貝殻腹縁による刻目を施し、胴部は荒い斜行する貝殻条痕が施されるものである。50は口縁部径16.8cmを測る。わずかに外開き気味の器形で、口縁部に貝殻腹縁による刻目を施し、胴部は荒い条痕である。51は口縁部径18.2cmを測る。ほぼ直行する器形で、口縁部端部に刻目を施し、胴部は荒い貝殻条痕である。52～55は口縁部で、端部に刻目を施すものである。56～61は胴部で、荒い貝殻条痕が施されるものである。

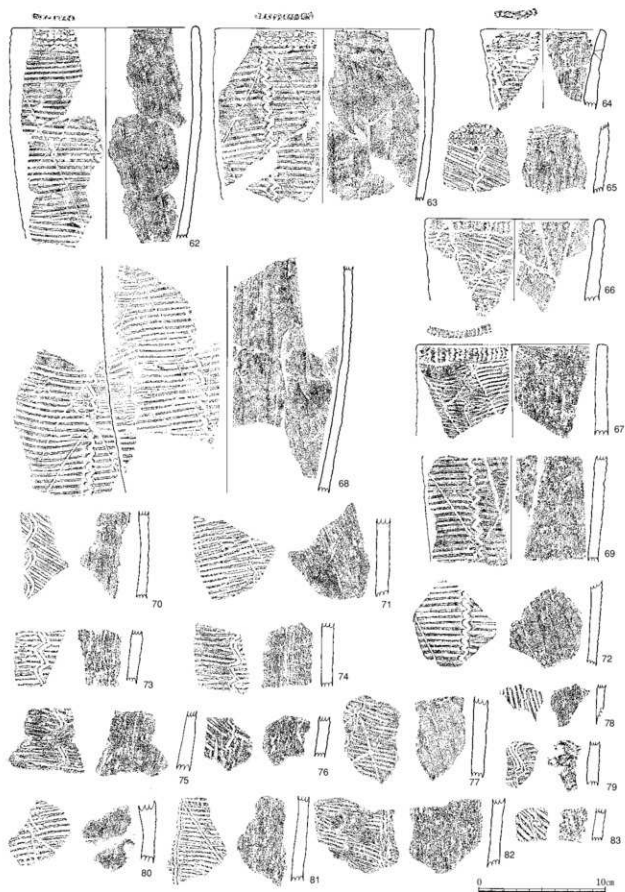
Ⅱ類土器 (第28図～第31図)

Ⅱ類土器には、円筒土器・角筒土器・レモン形土器の3つの形態がある。文様構成は口縁部には横位若しくは縦位の貝殻刺突文を施し、胴部には地文と

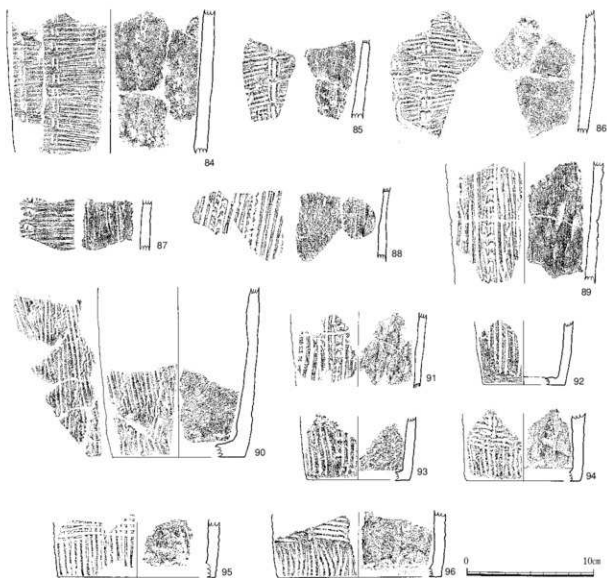
して整然とした横位の貝殻条痕文を施し、その上に沈線文及び流水文・刺突連点文等を施す二重施文が特徴である。62～96は円筒土器である。62と63は胴部から口縁部へわずかに内湾気味に直行するもので、62は口縁部径14.8cm、63は口縁部径17.3cmを測る。64は口縁部が外反するもので、補修孔が認められる。67・68は口縁部が直行するものである。84～91は縦位の刺突連点文が施されるものである。88～94は貝殻腹縁による刺突連点文が施され、地文の貝殻条痕が縦位に施されるものである。90～96は底部。下には縦位の荒い沈線文が施される。97～114は角筒土器。文様構成は円筒土器とほぼ同様である。97は1辺9.5cmを測るもので、角の部分が山形になる。98・99は口縁部で、角の部分が山形になるものである。98には補修孔が見られる。115と116は口縁部上面観がレモン様の形をしているのでレモン形土器とされているものである。口縁部に縦位の貝殻刺突文を施し、胴部には地文の貝殻条痕文と刺突連点文が施される。



第27図 Ⅰ類土器



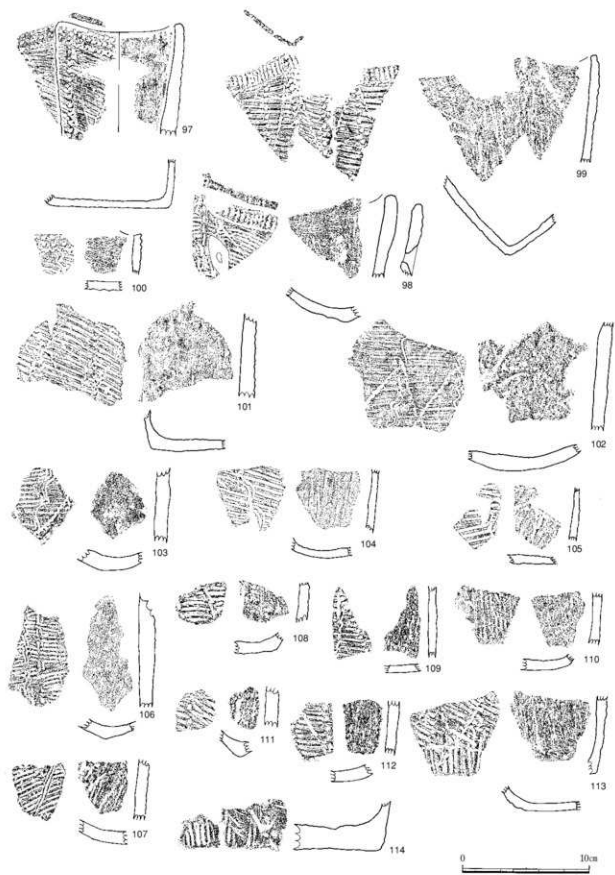
第28圖 II類土器(1)



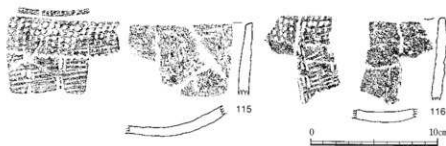
第29図 II類土器(2)

I類土器観察表

神田 番号	出土区	層位	部位	色		胎土				外面	内面	類	備考	
				内	外	石灰	長石	角閃石	石英					
第 27 図	50	H-5	V	口縁部	洗黄	暗灰黄	○	○	○	良	貝殻刻目・条痕文	ヘラケズリ・ヘラミガキ	I	
	51	H-7	V	口縁部	にがい黄	明黄褐色	○	○	○	良	貝殻刻目・条痕文	ヘラミガキ	I	
	52	H-5	V	口縁部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	良	貝殻刻目・条痕文	ヘラケズリ	I	
	53	H-7	V	口縁部	灰オリーブ	オリーブ黄	○	○	○	良	ヘラ刻目・条痕文	ヘラミガキ	I	
	54	H-6	V	口縁部	黄褐色	にがい黄	○	○	○	良	ヘラ刻目・貝殻条痕文	ナデ	I	
	55	G-6	V	口縁部	黄灰	黄褐色	○	○	○	良	貝殻刻目・条痕文	ヘラミガキ	I	
	56	H-5	V	胴部	にがい黄	明黄褐色	○	○	○	良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	I	
	57	H-5	V	胴部	洗黄	洗黄	○	○	○	良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	I	
	58	H-7	V	胴部	洗黄	にがい黄褐色	○	○	○	良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	I	
	59	—	V	胴部	暗オリーブ褐色	オリーブ褐色	○	○	○	良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	I	
	60	H-5	V	胴部	黒褐色	黒褐色	○	○	○	良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	I	
	61	H-6	V	胴部	灰オリーブ	にがい黄	○	○	○	良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	I	



第30圖 II類土器(3)



第31図 II類土器(4)

II類土器観察表

調査 番号	標記 番号	出土地	層位	部位	色		質		胎 土	施 土	外 面		内 面	備 考	
					内	外	石	灰			丸	石			点
第 26 図	62	H-5-6	M/V	口縁~胴部	黒褐	黒褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文・沈線文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	63	H-5	M	口縁部	オリブ褐	黒褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文・沈線文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	64	H-5	M	口縁部	黒	にがい質褐	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 腫れ孔	
	65	H-5	M	胴部	にがい質褐	にがい質褐	○	○	○		良	貝割刺突文・赤文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	66	H-4	M	口縁部	にがい質褐	黒褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	67	H-4	M	口縁部	灰青褐	黒褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	68	H-5,7	M	胴部	黒褐	にがい質褐	○	○			良	貝割刺突文・沈線文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	69	H-5	M	胴部	黒褐	黒	○	○			良	貝割刺突文・沈線文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	70	H-5	M	胴部	暗灰青	黄褐	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	71	-	M	胴部	褐	にがい褐	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	72	H-5	V	胴部	オリブ黒	黒褐	○	○			良	貝割刺突文・沈線文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	73	H-6	M	胴部	灰青褐	黒褐	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	74	H-6	M	胴部	にがい質褐	オリブ褐	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	75	H-6	M	胴部	オリブ黒	にがい褐	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	76	H-6	M	胴部	にがい質褐	にがい質褐	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	77	H-4	M	胴部	灰青褐	にがい質褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	78	I-4	M	胴部	暗オリブ褐	黄灰	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	79	H-7	M	胴部	暗灰青	黄灰	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	80	H-6	M	胴部	褐	褐	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	81	H-7	M	胴部	オリブ褐	にがい質褐	○	○			良	貝割刺突文・沈線文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	82	H-5	M	胴部	黒褐	褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	83	H-5	M	胴部	にがい質褐	褐	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	第 29 図	84	H-6	M	胴部	暗オリブ褐	暗灰青	○	○			良	流水文・貝割刺突文	ヘラケズリ鎌ナデ	Ⅰ
		85	H-7	M	胴部	黄褐	黄褐	○	○			良	流水文・貝割刺突文	ヘラケズリ鎌ナデ	Ⅰ
		86	H-6	M	胴部	灰青褐	にがい質褐	○	○			良	流水文・貝割刺突文	ヘラケズリ鎌ナデ	Ⅰ
		87	H-6	V	胴部	にがい褐	灰青	○	○			良	流水文・貝割刺突文	ヘラケズリ	Ⅰ
88		H-5	M	胴部	黒褐	黄灰	○	○			良	流水文・貝割刺突文	ヘラケズリ	Ⅰ	
89		H-5	M	胴部	黒褐	黄灰	○	○			良	流水文・貝割刺突文	ヘラケズリ	Ⅰ	
90		I-4	M/V	底部	褐	にがい褐	○	○			良	流水文・貝割刺突文	ヘラケズリ	Ⅰ	
91		H-5	M	胴部	黒褐	にがい質褐	○	○			良	流水文・貝割刺突文	ヘラケズリ	Ⅰ	
92		H-5	M	底部	にがい質褐	黄褐	○	○			良	貝割刺突文	ヘラケズリ	Ⅰ	
93		H-5	M	底部	にがい質褐	にがい質褐	○	○			良	流水文・貝割刺突文	ヘラケズリ	Ⅰ	
94		I-5	M	底部	にがい質	にがい質褐	○	○			良	貝割刺突文・沈線文	ヘラケズリ	Ⅰ	
95		H-5-6	V	底部	黒褐	褐	○	○			良	貝割刺突文	ヘラケズリ	Ⅰ	
96		H-5	M	底部	褐	にがい質褐	○	○			良	貝割刺突文	ヘラケズリ	Ⅰ	
第 30 図		97	H-5-6	M	口縁部	にがい質褐	黄灰	○	○			良	貝割刺突文・赤文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ
	98	H-4	M	口縁部	暗褐	暗褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文	ヘラケズリ	Ⅰ 腫れ孔	
	99	H-6	M	口縁部	褐	にがい質褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削	
	100	H-4	M	口縁部	褐灰	にがい質褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削	
	101	H-5	M	胴部	黄褐	にがい質褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削	
	102	H-5	M	胴部	褐	黒褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削	
	103	H-7	M	胴部	暗灰青	黄褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削	
	104	H-5	M	胴部	オリブ褐	黄褐	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削	
	105	H-5	M	胴部	褐	にがい褐	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削	
	106	H-5	M	胴部	にがい質	にがい質	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削	
	107	H-5	M	胴部	明黄褐	黄	○	○			良	貝割刺突文・沈線文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削	
	108	G-7	M	胴部	黒褐	褐	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削	
	109	H-6	M	胴部	にがい質	黄灰	○	○			良	貝割刺突文・赤文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削	
	110	I-4	M	胴部	にがい褐	暗赤褐	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削	
111	-	M	胴部	暗褐	褐	○	○			良	貝割刺突文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削		
112	H-6	M	胴部	明黄褐	にがい褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削		
113	H-6	V	底部	黒褐	にがい質褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文・沈線文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削		
114	H-5	M	底部	にがい質褐	黄灰	○	○			良	貝割刺突文・沈線文	ヘラケズリ	Ⅰ 角削		
115	H-4	M	口縁部	褐	黒褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 七ヶ形		
116	H-5-6	M	口縁部	にがい質褐	黒褐	○	○			良	貝割刺突文・赤文・流水文	ヘラケズリ	Ⅰ 七ヶ形		

Ⅲ類土器 (第32図～第35図)

Ⅲ類土器には円筒土器・クサビ形貼付文の円筒土器・角筒土器の3つの形態がある。円筒土器は、口縁部に横位の貝殻刺突文を施し、胴部には貝殻刺突文と斜位の貝殻条痕文を押し引状に施すものである。117～125は口縁部である。口唇部が平坦なものには刻目が施されているが、120～122・124は口唇部がやや丸みを帯び、刻目が施されていない。

117は口縁部径12.4cmを測るもので、わずかに内湾する形態である。口縁部に3条の刺突文を廻らし、胴部には縦位の貝殻刺突文と斜位の条痕文を施す。平坦な口唇部にはヘラによる刻目が見られる。119は口縁部径12cmを測るものではほぼ直行する形態である。文様構成は117と同様である。118は口縁部径22.5cmを測るものである。口縁部に7条の貝殻刺突文を廻らし、胴部の貝殻条痕文は横位に近いものである。

126～180は胴部片である。いずれも貝殻刺突文と押し引状の貝殻条痕文が施されるものである。181～183は底部である。181は底部径11.2cmを測るもので、ヘラによる沈線文を縦位に施す。182は底部径7.5cm

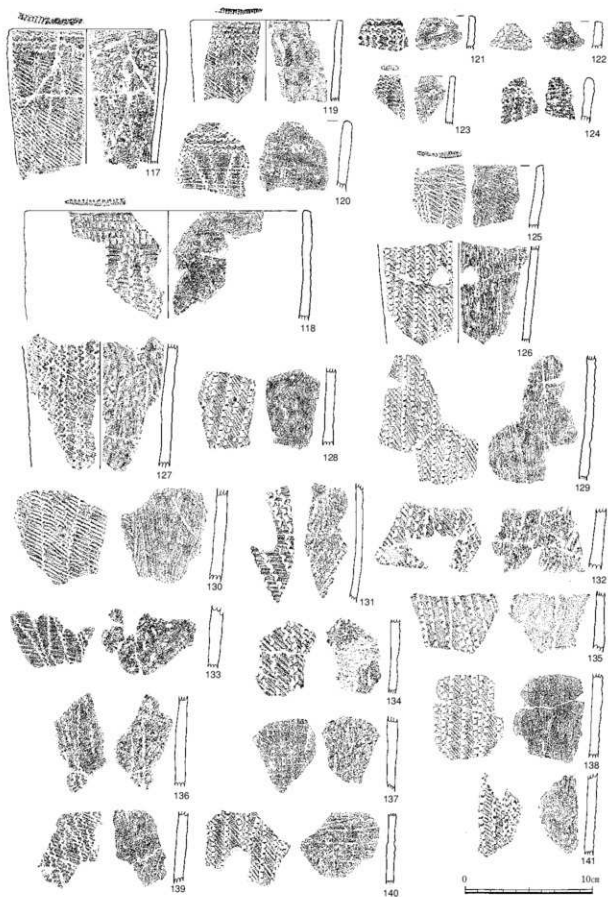
を測るもので、細い沈線文が縦位に施されるが不規則である。183はヘラによる沈線文を縦位に施すものである。

184～205はクサビ形貼付文を有する円筒土器である。口縁部に横位の貝殻刺突文、胴部には縦位の貝殻刺突文と斜位の押し引状貝殻条痕文を施し、平坦な口唇部に刻目が見られる所は円筒土器と同様である。クサビ形貼付文は胴部上位に2段施されているものがほとんどである。184～190は口縁部。184は口縁部径17cmを測るもので、わずかに外反する。185は口縁部径13.5cmを測るものでほぼ直行する。191～205は胴部である。198、203、205は胴部の貝殻条痕文がナデ消されている。192、199、200は胴部の貝殻条痕文が横位である。

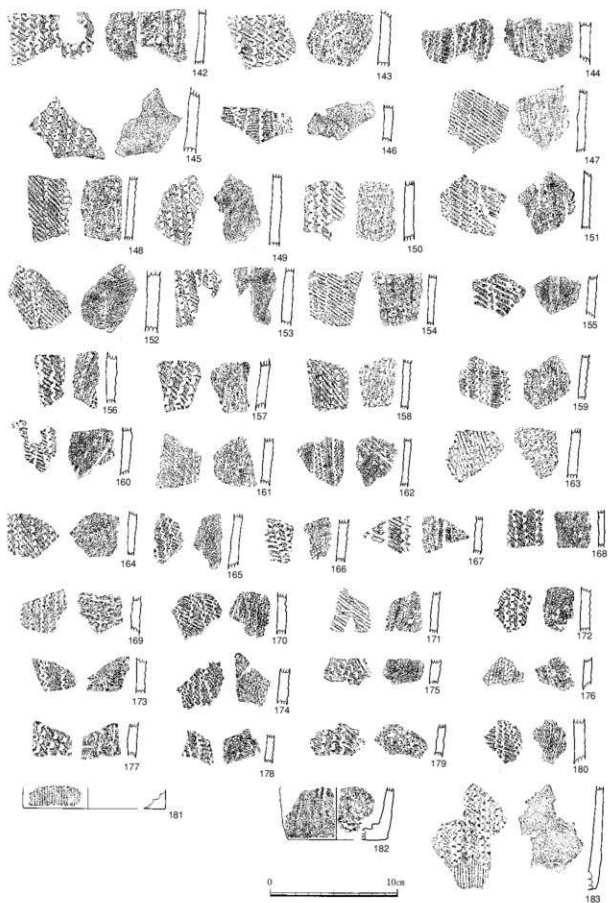
206～222は角筒土器である。文様構成は円筒土器・クサビ形貼付文を有する円筒土器と同様である。206は口縁部である。口縁部には横位の貝殻押し引文を施し、胴部は貝殻刺突文と押し引状の条痕文を施すものである。207～222は胴部である。

Ⅲ類土器観察表

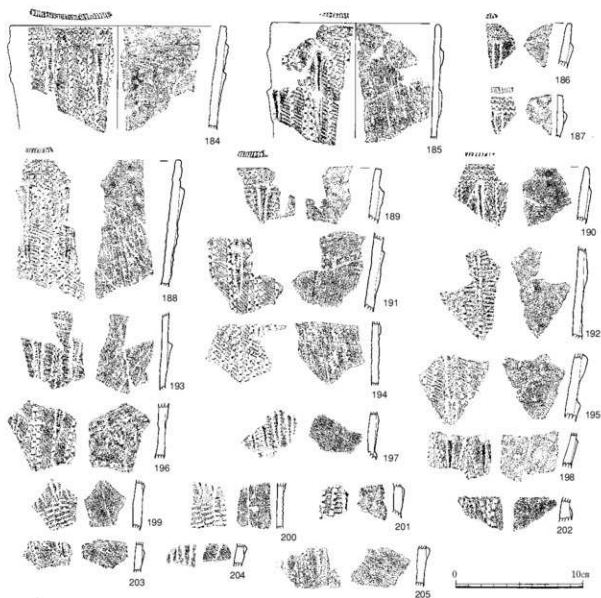
種別	番号	出土区	層位	部位	色		胎		土	備	外 面		類	備考
					内	外	石灰	黒石			角閃石	石		
第 32 図	117	H-4-50/V	口縁部	胴部	にがい質焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	118	H-5	M	口縁部	にがい質焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	119	—	—	口縁部	にがい質焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ・ナデ	Ⅲ	
	120	H-5	M	口縁部	にがい質焼	焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	121	H-7	M	口縁部	黄焼	黒焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	122	H-5	M	口縁部	にがい質焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文	ナデ	Ⅲ	
	123	H-6	M	口縁部	にがい質焼	暗灰焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	124	H-5	M	口縁部	洗黄	黄焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	125	H-6	M	口縁部	焼	明焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	126	H-5	M	胴部	焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	127	H-6	M	胴部	洗黄	洗黄	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	128	H-5	M	胴部	にがい質焼	焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ・ナデ	Ⅲ	
	129	I-5	M	胴部	にがい質焼	焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	130	G-13	M	胴部	黄焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	131	H-5	M	胴部	にがい質焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	132	H-5	M	胴部	にがい質焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	133	H-5	M	胴部	焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	134	H-5	M	胴部	にがい質焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	135	H-5	M	胴部	明赤焼	明赤焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	136	I-5	M	胴部	にがい質焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
	137	—	—	胴部	にがい質焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ	
138	H-5	M	胴部	にがい質焼	焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ		
139	H-1-5	M	胴部	にがい質焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ		
140	H-5	M	胴部	にがい質焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ		
141	H-5	M	胴部	黒焼	にがい質焼	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	Ⅲ		



第32図 III類土器 (1)



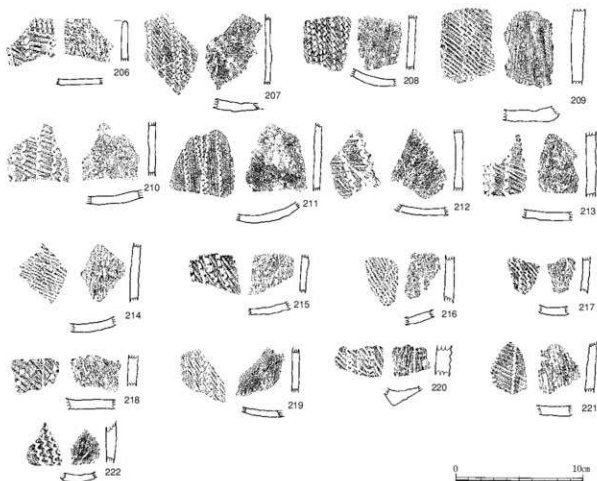
第33圖 III類土器(2)



第34図 III類土器 (3)

III類土器観察表

河内 番号	番号	出土区	層位	部位	内 面					土質	外 面				類 考	
					色	刷	胎	石	黒		赤	四	石	文		文
第 33 図	142	H-5	I/V	胴部	にがい質焼	暗褐色	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ	Ⅲ
	143	H-6	I/V	胴部	清灰	にがい質焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ	Ⅲ
	144	H-5	I/V	胴部	質焼	にがい質焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ	Ⅲ
	145	H-5	I/V	胴部	にがい焼	にがい焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ナデ	Ⅲ
	146	H-6	Ⅴ	胴部	にがい質	にがい赤焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ナデ	Ⅲ
	147	I-4	V	胴部	黒焼	清灰	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ	Ⅲ
	148	I-4	I/V	胴部	焼	にがい焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ	Ⅲ
	149	H-5	I/V	胴部	にがい焼	にがい焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ	Ⅲ
	150	H-5	I/V	胴部	質焼	暗灰質	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ	Ⅲ
	151	H-5	I/V	胴部	にがい質焼	明灰焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ	Ⅲ
	152	H-7	I/V	胴部	にがい質焼	にがい焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ナデ	Ⅲ
	153	H-6	V	胴部	灰質焼	にがい焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ナデ	Ⅲ
	154	H-5	I/V	胴部	オリブ焼	にがい質	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ	Ⅲ
	155	H-5	I/V	胴部	にがい質焼	暗灰質	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ・ナデ	Ⅲ
	156	H-5	I/V	胴部	にがい質	にがい質焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ	Ⅲ
	157	H-5	I/V	胴部	灰質	にがい焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ	Ⅲ
	158	I-4	I/V	胴部	焼	にがい焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ	Ⅲ
	159	H-4	I/V	胴部	オリブ焼	にがい焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ	Ⅲ
	160	H-5	V	胴部	質焼	灰質焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ・ナデ	Ⅲ
	161	I-4	I/V	胴部	質焼	にがい焼	○	○	○	○	良	貝殻刺突文・条痕文			ヘラケズリ	Ⅲ



第35図 III類土器 (4)

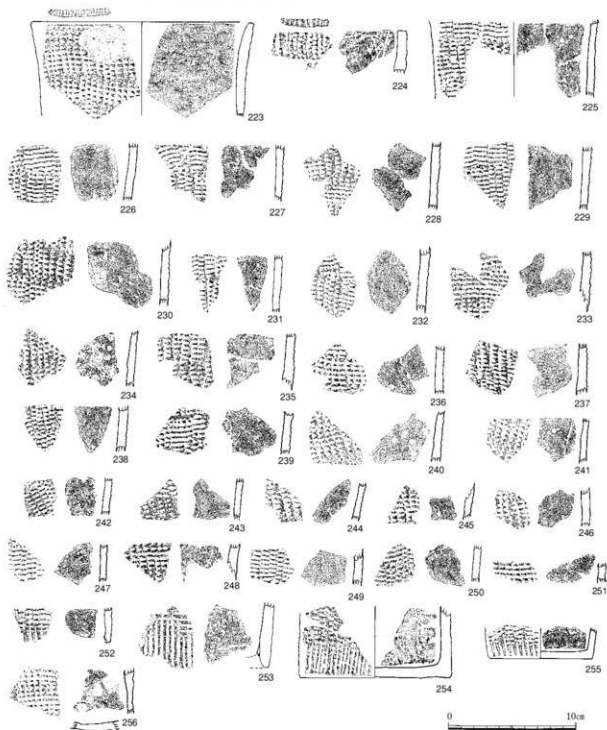
III類土器観察表

断面 番号	出土区	層位	部位	色		胎		土質	焼成	外面	内面	備考
				内	外	石灰	黒石					
第 35 図	162	H-5	M	胴部	黒褐	黄褐	○	○	○	貝殻刺突文	ヘラケズリ	並
	163	H-4	M	胴部	褐	にがい黄	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	並
	164	I-5	M	胴部	明黄褐	にがい黄褐	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	並
	165	H-5	M	胴部	黄褐	にがい黄褐	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	並
	166	H-4	M	胴部	にがい赤褐	にがい黄褐	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	並
	167	H-5	M	胴部	にがい橙	にがい黄褐	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	並
	168	I-5	M	胴部	にがい橙	にがい黄褐	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	並
	169	H-5	M	胴部	淡黄	暗灰黄	○	○	○	貝殻刺突文	ヘラケズリ	並
	170	H-5	V	胴部	暗灰黄	にがい黄褐	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	並
	171	H-5	M	胴部	にがい黄	にがい黄	○	○	○	貝殻条痕文	ヘラケズリ	薄積孔並
	172	H-4	M	胴部	暗灰黄	橙	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	並
	173	I-4	M	胴部	黄赤	にがい橙	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	並
	174	I-5	M	胴部	黄褐	淡黄	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ後ナデ	並
	175	H-7	M	胴部	にがい黄褐	にがい橙	○	○	○	貝殻刺突文	ナデ	並
	176	H-5	M	胴部	にがい黄褐	にがい黄	○	○	○	貝殻刺突文	ナデ	並
	177	I-5	M	胴部	淡黄	にがい黄	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	並
	178	H-6	M	胴部	褐	にがい黄	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	並
	179	H-5	M	胴部	黄褐	黄褐	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ	並
	180	G-13	M	胴部	黒褐	にがい黄	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文	ヘラケズリ後ナデ	並
	181	H-5	M	底部	褐灰	橙	○	○	○	弦線文		並
	182	H-5	M	底部	黒褐	暗褐	○	○	○	貝殻刺突文	ヘラケズリ	並
	183	H-4	M	底部	にがい黄褐	橙	○	○	○	貝殻刺突文・条痕文・弦線文	ヘラケズリ	並

IV類土器 (第36図)

IV類土器には円筒土器、角筒土器の形態がある。胴部に横位の押し文を施すもので、口唇部には刻目が見られるものである。223・224は口縁部である。223は口縁部径17.7cmを測るもので、やや外反する。口縁部に横位の貝殻刺突文を2段に施し、胴部はきめの細かい横位の押し文を施す。口唇部にはへらによる刻目が見られる。224は貝殻刺突文は無く、

横位の押し文だけである。口唇部には刻目が見られる。225～252は胴部である。いずれも、きめの細かい横位の押し文が施されるものである。253～255は底部である。いずれもへらによる縦位の沈線文を施すものである。254は底部径11.7cm、255は底部径8cmを測る。256は角筒土器である。円筒土器と同様にきめの細かい横位の貝殻押し文を施すものである。



第36図 IV類土器

Ⅲ・Ⅳ類土器観察表

調査 番号	出土区	層位	部位	色		質	胎	土	焼 成	外 面		内 面	備 考
				内	外					石	黒石		
184	I-4	V	口縁部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文・クサビ	ヘラケズリ・ヘラミガキ		
185	H-7	M	口縁部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文・クサビ	ヘラケズリ		SS1107
186	H-6	M	口縁部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・クサビ	ヘラケズリ		
187	G-6	Ⅱ	口縁部	赤焼	にがい赤焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・クサビ	ヘラケズリ		
188	H-5	V	口縁部	にがい青焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文・クサビ	ヘラケズリ・ナデ		
189	H-6	M	口縁部	黒焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文・クサビ	ナデ		備録番号
190	H-5	M	口縁部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文・クサビ	ナデ		
191	H-5	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文・クサビ	ヘラケズリ		
192	H-4	M	胴部	黒焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文・クサビ	ヘラケズリ・ナデ		
193	H-6	M	胴部	黒焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文・クサビ	ヘラケズリ		
194	H-5	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文・クサビ	ヘラケズリ		
195	H-5	M	胴部	黒焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文・クサビ	ヘラケズリ		
196	H-5	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文・クサビ	ヘラケズリ		
197	H-5	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・クサビ	ナデ		
198	H-5	M	胴部	黒焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・クサビ	ヘラケズリ		
199	H-5	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・押引文・クサビ	ナデ		
200	H-5	M	胴部	にがい青焼	暗黒焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・押引文・クサビ	ナデ		
201	H-4	M	胴部	にがい青焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文・クサビ	ナデ		
202	H-5	M	胴部	黒焼	明青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・クサビ	ナデ		
203	H-5	M	胴部	にがい青焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・クサビ	ヘラケズリ		
204	—	—	胴部	にがい青焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・クサビ	ナデ		
205	H-4	M	胴部	黒焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・クサビ	ナデ		
206	H-6	M	口縁部	にがい青焼	黄焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・刺突文・条直文	ヘラケズリ		角皿
207	I-4	M	胴部	にがい青焼	明赤焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ヘラケズリ		角皿
208	H-5	M	胴部	黒焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ヘラケズリ		角皿
209	H-13	M	胴部	にがい青焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ヘラケズリ		角皿
210	H-6	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ヘラケズリ		角皿
211	I-4	M	胴部	黒焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ヘラケズリ		角皿
212	H-5	M	胴部	にがい青焼	灰青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ナデ		角皿
213	H-5	M	胴部	にがい青焼	暗灰青	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ヘラケズリ		角皿
214	H-5	M	胴部	黄焼	浅黄	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ヘラケズリ		角皿
215	I-5	M	胴部	暗青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ヘラケズリ		角皿
216	H-5	M	胴部	浅黄	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ヘラケズリ		角皿
217	H-5	M	胴部	暗灰青	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ナデ		角皿
218	H-6	M	胴部	にがい青焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ナデ		角皿
219	H-5	V	胴部	黒焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ヘラケズリ		角皿
220	I-4	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ヘラケズリ		角皿
221	H-5	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ヘラケズリ		角皿
222	H-6	M	胴部	浅黄	浅黄	○	○	○	○	貝殻刺突文・条直文	ヘラケズリ		角皿
223	H-5	M	口縁部	黒焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ヘラミガキ		M
224	H-7	M	口縁部	明青焼	明青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
225	H-6	M	胴部	黒焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
226	H-7	M	胴部	暗灰青	オリブ黒	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
227	H-7	M	胴部	明青焼	黄焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
228	H-5	M	胴部	灰焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
229	H-7	M	胴部	にがい青焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
230	H-6	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
231	H-7	M	胴部	にがい青焼	浅黄	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
232	H-7	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
233	H-5	M	胴部	灰青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
234	H-5	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
235	H-5	M	胴部	褐灰	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
236	H-5	M	胴部	灰青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
237	H-5	M	胴部	黒焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
238	H-7	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
239	H-5	V	胴部	褐灰	黒焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
240	H-5	M	胴部	にがい青焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
241	H-5	M	胴部	にがい青焼	明青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
242	H-7	M	胴部	黒焼	灰青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
243	H-5	M	胴部	明青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
244	H-5	V	胴部	にがい青焼	黒焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
245	H-5	M	胴部	黒焼	暗黒	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
246	H-5	M	胴部	褐灰	灰青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
247	H-7	M	胴部	褐灰	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
248	H-5	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
249	G-7	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
250	H-7	M	胴部	灰青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
251	H-5	M	胴部	灰青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		M
252	H-7	M	胴部	黒焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文・沈線文	ナデ		M
253	I-4	M	底部	オリブ黒	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文・沈線文	ヘラケズリ		M
254	H-4	M	底部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文・沈線文	ヘラケズリ		M
255	H-7	M	底部	にがい青焼	オリブ黒	○	○	○	○	貝殻押引文・沈線文	ナデ		M
256	H-6	M	胴部	にがい青焼	にがい青焼	○	○	○	○	貝殻押引文	ナデ		角皿

V類土器 (第37図～第48図)

V類土器は、全形は円筒形で、口縁部に貝殻刺突文、胴部に貝殻刺突文を施すものである。口縁部の器形、文様、胴部の条痕文、底部の刻目等により細分される。

口縁部の器形では、外反するものと外傾し直行するものとで大別される。文様では、貝殻腹縁による刺突文が、横位・斜位・縦位または羽状に施されたものに分類される。胴部の条痕文は綾杉状になるものが多い。

257～283は、口縁部が外反し、貝殻腹縁による刺突文を斜位に施し、胴部に条痕文を施すものである。257は、口径20cm、器高22cmを測る中形のものである。口縁部の外反は大きく貝殻腹縁による刺突文が斜位に施されており、補修孔も確認できる。

胴部には、綾杉状条痕文が見られる。258も、同様に口縁部の外反は大きく斜位の貝殻刺突文を有する。口唇部は257より厚みがあり、刻目が施されているのが特徴である。胴部には綾杉状条痕が施され、口径は18cmを測る。259は口径16cm、260は19cmを測り、共に257・258ほど口縁部の外反は著しくなく、斜位の貝殻刺突文が施され、口唇部には刻目が、胴部には綾杉状条痕文が見られる。261～265は、外反が緩やかで口縁部には斜位の貝殻刺突文が、胴部には条痕文が施されている。266は口縁部の外反が緩やかであるが、267はやや大きく、共に口縁部に斜位の貝殻刺突文、口唇部に刻目、胴部に条痕文が見られる。

268・269は、口縁部に斜位の貝殻刺突文が、胴部には条痕文が施されている。270・271は、口縁部に斜位の貝殻刺突文が見られる。

272～275の口縁部には斜位の貝殻刺突文が施され、272の胴部には条痕文、273の口唇部には刻目が見られる。276～283は、口縁部に斜位の貝殻刺突文が施され、276～278及び281～283は胴部に綾杉状の条痕文が見られる。276の口唇部には刻目も見られる。281～283は、口径がそれぞれ36cm、33.6cm、26.2cmを測る大形のものである。

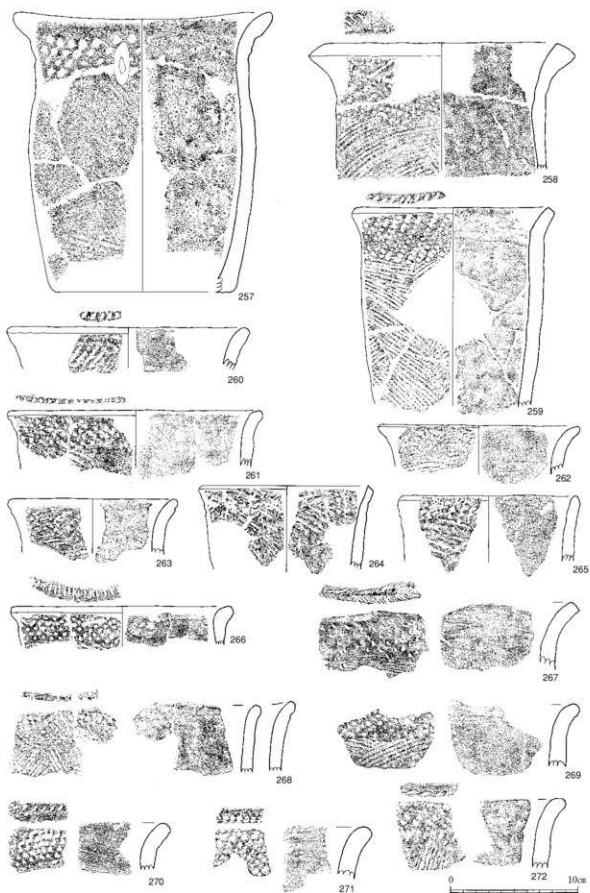
284～292は、口縁部がやや外反し、羽状の貝殻刺突文が施されているものである。284～287までは口唇部に刻み目が見られる。291の刺突文はへら状工具によるものと貝殻によるものとの複合模様である。

293～349までは、口縁部が外反し、多くは横位の貝殻刺突文が施され、口唇部には刻目が、胴部には綾杉状の条痕文が見られる。293は、口縁部が緩やかに外反し、横位の貝殻刺突文が施され、補修孔が確認できる。口唇部には刻目が、胴部には条痕が見られる。口径は22.5cm、器高は22cmを測る。

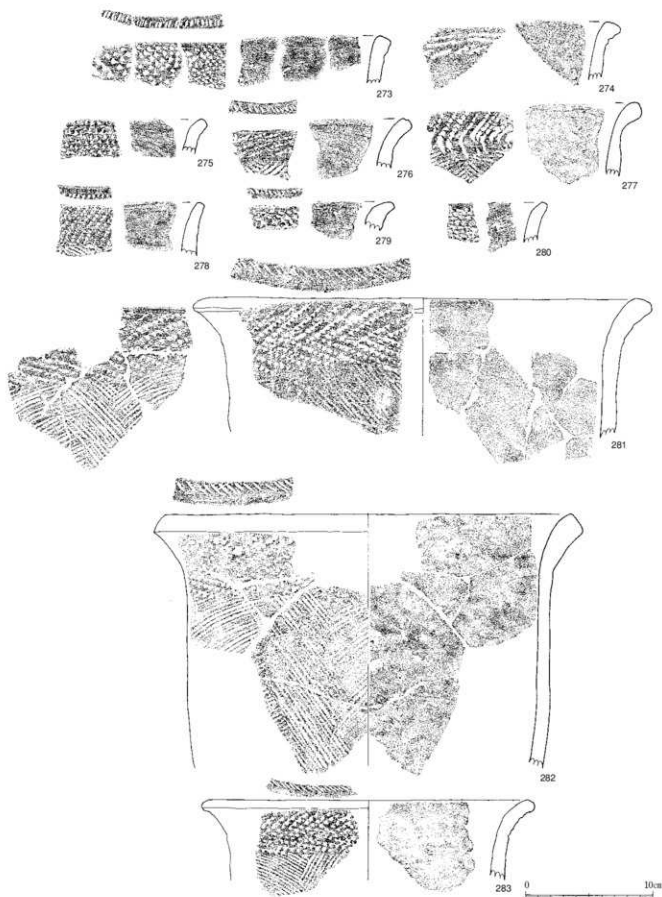
298・299、305～313は、口縁部の貝殻刺突文が横位と斜位を組み合わせた状態で存在する。315、326は、口縁部にへら状工具による斜位の刺突文と横位の貝殻刺突文を有し、胴部にかけて綾杉状の条痕文を施す。306、312・313は山形口縁で、突出部が2ヶ所である。327には補修孔を穿こうとした痕跡が見られる。

V類土器観察表1

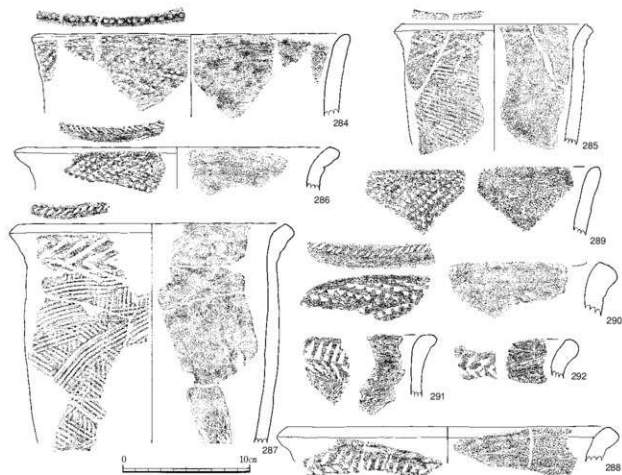
器形番号	出土区	層位	部位	色				土質	構成	外面		内面	備考
				内	外	右	石			西	石		
257	H-6-7	IV	変形	黄～黒	黄～明赤褐	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	補修孔	
258	H-6-7	IV	口縁～胴部	黄	明褐	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	
259	H-6-7	IV	口縁～胴部	黄褐	黒褐	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	
260	H-6	IV	口縁部	にない	にない	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	
261	H-6	IV	口縁部	にない	にない	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	
262	H-7	IV	口縁部	にない	黄褐	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	
263	H-7	IV	口縁部	黄	明黄褐	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	
264	H-7	IV	口縁～胴部	黄褐	黄	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	
265	H-7	IV	口縁～胴部	黄褐	黄	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	
266	H-7	IV	口縁部	黄褐	黄	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	
267	H-7	IV	口縁部	黄	黄	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	
268	H-6-7	IV	口縁部	黄	明黄褐	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	
269	H-6	IV	口縁部	黄	にない	黄褐	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	
270	H-7	IV	口縁部	黄	黄	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	
271	H-6	IV	口縁部	黄	黄	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	
272	H-7	IV	口縁部	にない	黄	○	○	良	貝殻刺突文(斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	ナデ	口唇刻目	



第37圖 V類土器 (1)



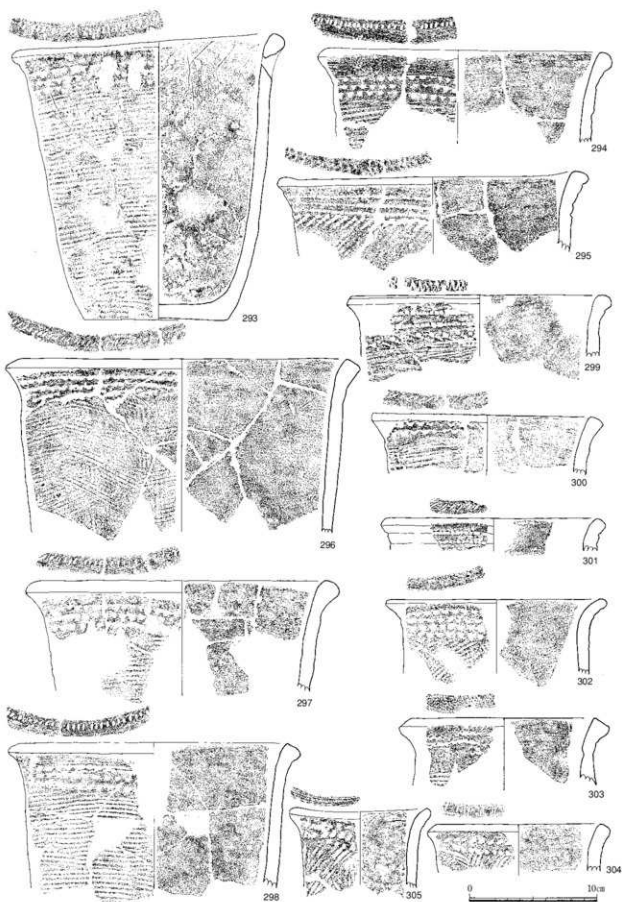
第38図 V類土器(2)



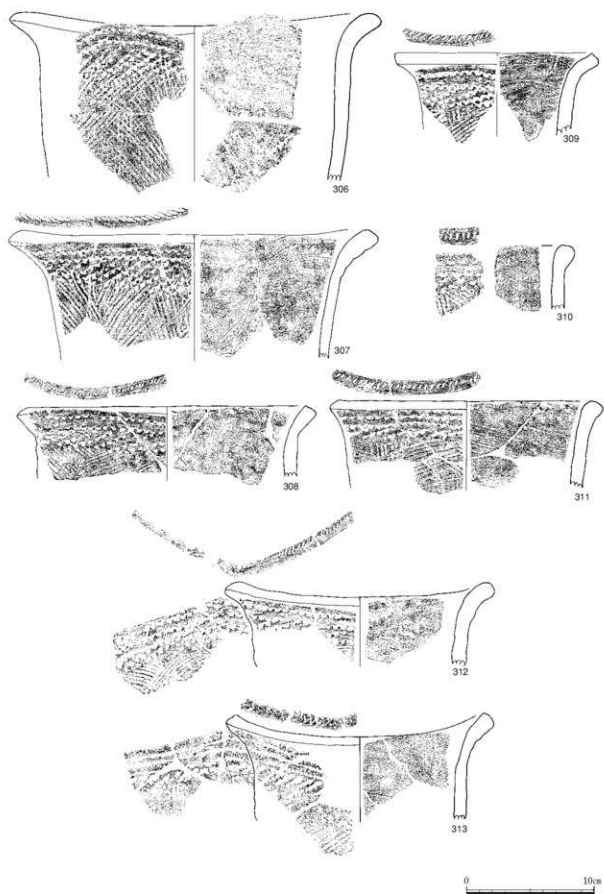
第39図 V類土器(3)

V類土器観察表 2

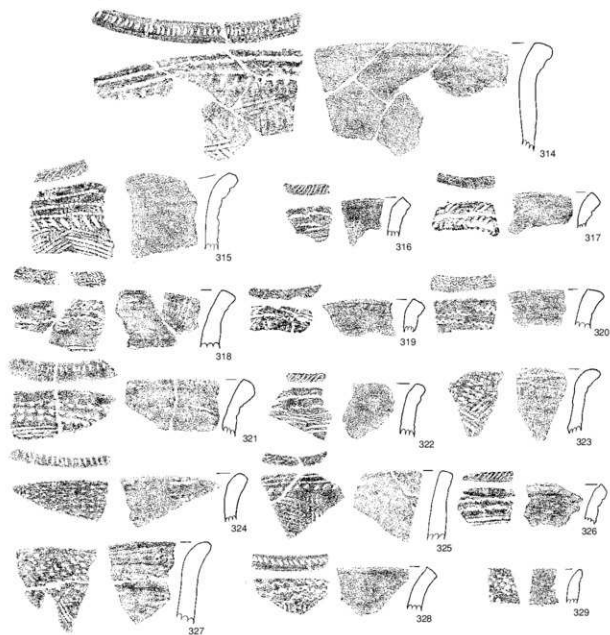
河内 番号	番号	出土区	層位	部位	色		胎	土	組成	外	面	内	備	考		
					内	外										
第36 図	273	H-6	V	口縁部	にんい	黄緑	明	○	○	良	貝割刺文(斜位)	ナ	ナ	口唇割目		
	274	H-6	V	口縁部	にんい	黄緑	明	○	○	良	貝割刺文(斜位)	ナ	ナ	口唇割目		
	275	H-7	V	口縁部	暗赤黄	オリブ	暗	○	○	良	貝割刺文(斜位)	ナ	ナ	口唇割目		
	276	H-7	V	口縁部	明赤褐	にんい	暗	○	○	良	貝割刺文(斜位)	条文(線杉状)	ナ	ナ	口唇割目	
	277	H-5	V	口縁部	にんい	黄緑	明赤褐	○	○	良	貝割刺文(斜位)	条文(線杉状)	ナ	ナ	口唇割目	
	278	H-7	V	口縁部	にんい	黄緑	黄赤	○	○	良	貝割刺文(斜位)	条文(線杉状)	ナ	ナ	口唇割目	
	279	H-6	V	口縁部	暗	にんい	黄緑	○	○	良	貝割刺文(斜位)	ナ	ナ	口唇割目		
	280	H-7	V	口縁部	にんい	黄緑	明	○	○	良	貝割刺文(斜位)	ナ	ナ	口唇割目		
	281	H-5	V	口縁-胴部	明赤褐	にんい	赤褐	○	○	良	貝割刺文(斜位)	条文(線杉状)	ナ	ナ	口唇割目	
	282	H-5-8	V	口縁-胴部	暗	明赤褐	明	○	○	良	貝割刺文(斜位)	条文(線杉状)	ナ	ナ	口唇割目	
	283	H-6	V	口縁部	暗	明赤褐	明	○	○	良	貝割刺文(斜位)	条文(線杉状)	ナ	ナ	口唇割目	
	第37 図	284	H-7	V	口縁部	暗	明赤褐	明	○	○	良	貝割刺文(斜位)	ナ	ナ	口唇割目	
285		I-6	V	口縁-胴部	にんい	黄緑	暗	○	○	良	貝割刺文(斜位)	条文	ナ	ナ	口唇割目	
286		H-5	V	口縁部	にんい	黄緑	明	○	○	良	貝割刺文(斜位)	ナ	ナ	口唇割目		
287		H-5-8	V	口縁-胴部	黄赤	明赤褐	明	○	○	良	貝割刺文(斜位)	条文(線杉状)	ナ	ナ	口唇割目	
288		H-6	V	口縁部	明赤褐	にんい	黄緑	○	○	良	貝割刺文(斜位)	条文(線杉状)	ナ	ナ	口唇割目	
289		H-6	V	口縁部	にんい	黄緑	明	○	○	良	貝割刺文(斜位)	ナ	ナ	口唇割目		
290		H-7	V	口縁部	暗	明赤褐	明	○	○	良	貝割刺文(斜位)	ナ	ナ	口唇割目		
291		H-5	V	口縁部	暗	明赤褐	明	○	○	良	ハツタ工具による刺文及び貝割刺文(斜位)	ナ	ナ	口唇割目		
292		H-6	V	口縁部	明赤褐	オリブ	暗	○	○	良	貝割刺文(斜位)	ナ	ナ	口唇割目		
293		H-5-6-7	V	胴部	安灰	にんい	黄緑	○	○	良	貝割刺文(斜位)	条文	ナ	ナ	口唇割目	
294		H-6-7	V	口縁部	明赤褐	明	明	○	○	良	貝割刺文(横位)	条文	ナ	ナ	口唇割目	
第40 図		295	H-6-7	V	口縁部	明赤褐	赤褐	明	○	○	良	貝割刺文(横位)	斜位	条文	ナ	ナ
	296	G-7,H-6	V	口縁-胴部	明赤褐	にんい	黄緑	○	○	良	貝割刺文(横位)	斜位	条文(線杉状)	ナ	ナ	口唇割目
	297	H-6	V	口縁-胴部	明赤褐	明	明	○	○	良	貝割刺文(横位)	斜位	条文	ナ	ナ	口唇割目
	298	H-4-5-7	V	口縁-胴部	暗	明赤褐	明	○	○	良	貝割刺文(横位)	斜位	条文(線杉状)	ナ	ナ	口唇割目
	299	I-4-5	V	口縁部	黄赤	にんい	黄緑	○	○	良	貝割刺文(横位)	斜位	条文	ナ	ナ	口唇割目
	300	H-7	V	口縁部	にんい	黄緑	明	○	○	良	貝割刺文(横位)	斜位	条文	ナ	ナ	口唇割目
	301	H-6	V	口縁部	黄赤	にんい	黄緑	○	○	良	貝割刺文(横位)	ナ	ナ	口唇割目		
	302	H-6	V	口縁部	暗赤褐	明赤褐	明	○	○	良	貝割刺文(横位)	斜位	条文(線杉状)	ナ	ナ	口唇割目
	303	H-7	V	口縁部	にんい	黄緑	暗	○	○	良	貝割刺文(横位)	斜位	条文	ナ	ナ	口唇割目
	304	H-6	V	口縁部	にんい	黄緑	明	○	○	良	貝割刺文(横位)	斜位	条文(線杉状)	ナ	ナ	口唇割目
	305	H-7	V	口縁部	暗赤褐	暗赤褐	明	○	○	良	貝割刺文(横位)	斜位	条文(線杉状)	ナ	ナ	口唇割目



第40図 V類土器(4)



第41図 V類土器(5)



第42図 V類土器(6)

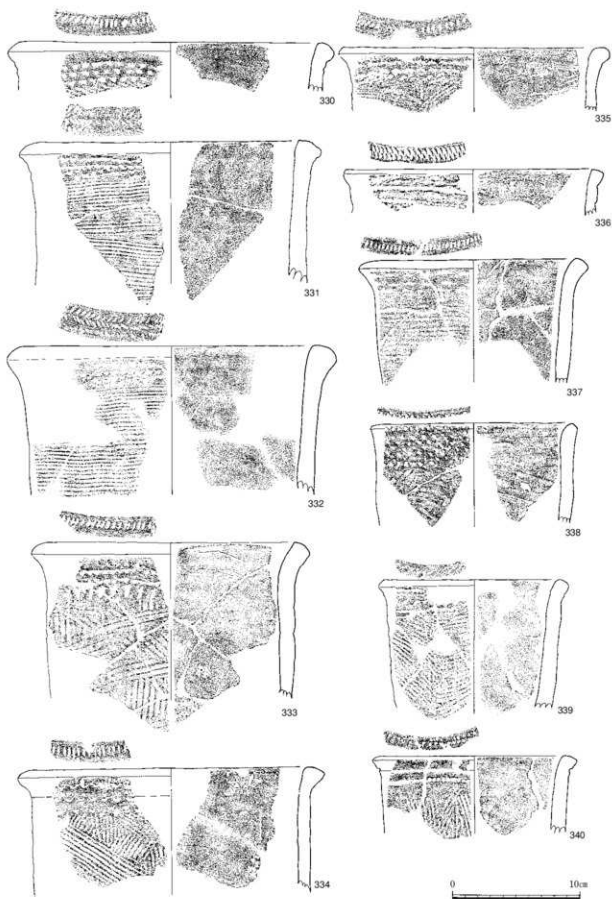
328, 330・331, 335・336には、口縁部に横位と斜位を組み合わせた貝殻刺突文を確認できる。337は、口縁部にヘラ状工具による刺突文と胴部には貝殻条痕が残る。

350～365までは、口縁部が直行し、直線的な胴部を経ているものである。350～352は、直線的な口縁部に横位の貝殻刺突文と胴部に縷杉状の条痕文を有し、口唇部には刻目が見られる。353は、口縁部に膨らみがあり斜位の貝殻刺突文が見受けられる。359の口縁部に見られる斜位の貝殻刺突文は他の刺突文と比べると特に深く顕著である。胴部に向かっては条痕文が見られ、指頭瓦痕も残っている。

365は、口縁部周辺に横位の貝殻刺突文が広がり、口縁部より2cmほど隆起するコブ状突起を有するものである。

366・367は、口縁部がやや外反し、一列横位に竹管文を有する。口径はそれぞれ、27cm、32cmと大形のものである。368・369は、口縁部に羽状の貝殻刺突文を施し、一部、ナデ消し後条痕文が見られる。368は、頸部から口縁部が急激に外反する。

370～374は、胴部から底部にかけての部位である。胴部には、縷杉状の貝殻条痕が見られ、底部外面を囲むようにヘラによる浅い5mmほどの沈線が縦位に施されている。



第43図 V類土器 (7)